

北海道オホーツク管内における 台湾ハクセキレイ *Motacilla alba ocularis* の初記録

城石 一徹

日本野鳥の会オホーツク支部, 099-3452 北海道斜里郡小清水町72-25

SHIROISHI Ittetsu : First record of *Motacilla alba ocularis* in Okhotsk Subprefecture,
Hokkaido, northern Japan

✉ tetsu_tetsu_ittetsu@yahoo.co.jp

Motacilla alba ocularis was observed at Abashiri City, Okhotsk Subprefecture, Hokkaido, northern Japan on 6 May 2020 and 8 May 2021. This report is the first record of this subspecies and the subsequent observations for the following year in Okhotsk Subprefecture, Hokkaido.

Keywords *Motacilla alba ocularis*, Abashiri City, Hokkaido, first record

はじめに

亜種台湾ハクセキレイ *Motacilla alba ocularis* はセキレイ科 Motacillidae に属するハクセキレイ *M. alba* の一亜種で、主にシベリア北部からアラスカ北西部で繁殖し、インド北東部のアッサム州や台湾、フィリピンで越冬する (Gill et al. IOC World Bird List (v 11.2), <https://www.worldbirdnames.org/>, 2021年12月13日閲覧; 日本鳥学会 2012). 日本鳥学会 (2012) によれば、亜種台湾ハクセキレイの北海道における観察記録の記載はなく、本州、四国、小笠原群島、トカラ列島、奄美大島などでは迷鳥である AV (accidental visitor)、九州では稀な旅鳥である IV (irregular visitor)、対馬では旅鳥である PV (passage visitor) と評価されている。

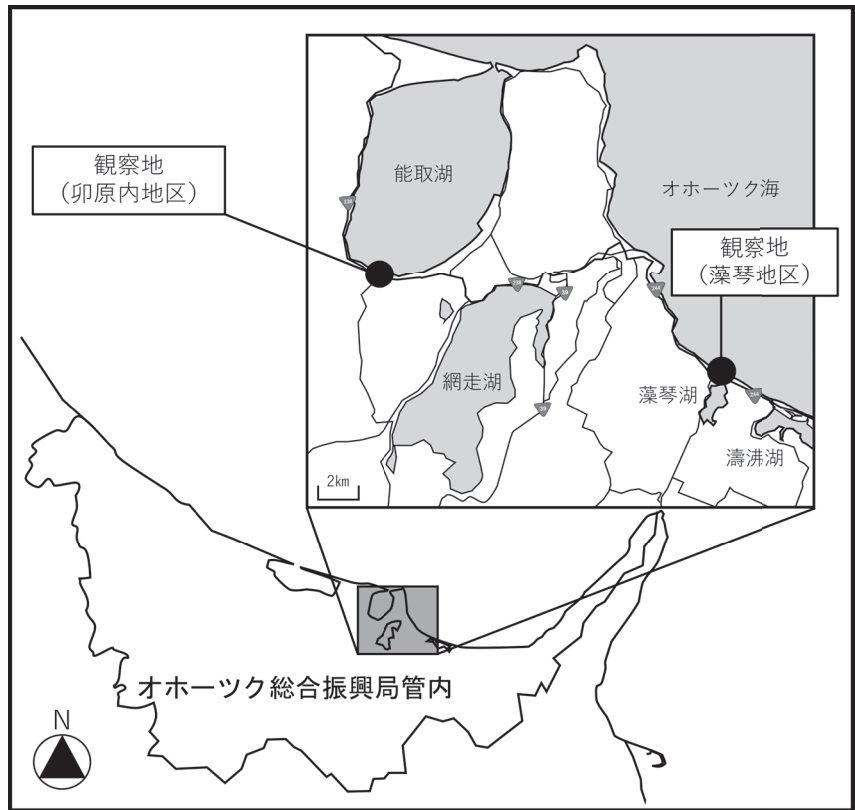
筆者は2020年5月6日および2021年5月8日に、北海道オホーツク総合振興局管内の網走市内2地点 (図1) において、延べ4個体の亜種台湾ハクセキレイを確認した。これまで北海道オホーツク総合振興局管内において亜種台湾ハクセキレイの観察記録が報告されていないことから、ここに報告する。

網走市卯原内地区における記録

2020年5月6日11時40分から13時00分までの

間、網走市字卯原内に位置する卯原内サング草群落地 (44°00'54.9"N, 144°07'03.0"E) で亜種ハクセキレイ *Motacilla alba lugens* (以下、亜種ハクセキレイ) の小群とともに行動している亜種ハクセキレイとは異なる2個体の別亜種を観察した。個体の観察には15倍の双眼鏡を用い、撮影には600 mmの望遠レンズを装着したデジタル一眼レフカメラを用いた。当該2個体の形態的特徴は以下のとおりであった。2個体はいずれも上嘴基部から後頭部にかけて細い黒色の過眼線を有していた (図2, 3)。頬は白色であり、側頸から胸部にかけて広がる黒色部は、腮や下嘴基部に及んでいた (図2a, 3a)。肩羽、上背は灰色であった (図2a, 3a)。中雨覆と大雨覆の先端部および外縁は白色で、外側大雨覆5枚の軸斑は黒色部を有し、内側大雨覆には淡い灰色の軸斑を有していた (図2b, 3b)。三列風切3枚の外縁は白色であり、いずれも羽毛の先端から羽毛基部側にかけて概ね同幅の白線を形成していた (図2a, 3a)。Gill et al. (IOC World Bird List (v 11.2), <https://www.worldbirdnames.org/>, 2021年12月13日閲覧) によれば、種ハクセキレイは9亜種に分類されており、それらのうち過眼線を有し、頬が白色である特徴を有する亜種は亜種ハクセキレイ *M. a. lugens* と亜種台湾ハクセキレイ *M. a. ocularis* のみである (Alström et al. 2003)。肩羽、上背

図1. 観察地点位置図.



が灰色である点は、亜種ハクセキレイ雌および第一回冬羽の雄ならびに亜種タイワンハクセキレイ雌雄に共通する特徴である (Alström et al. 2003). しかし、亜種ハクセキレイと比較し、当該個体では細い過眼線を有していた点、側頸から胸部にかけて広がる黒色部が腮や下嘴基部に及ぶ点は亜種ハクセキレイと一致せず、亜種タイワンハクセキレイに見られる特徴である (Alström et al. 2003). また、大雨覆に暗色の軸斑を有する点、3枚の三列風切の先端から羽毛基部側にかけて概ね同幅の白線を形成している点は亜種タイワンハクセキレイであることを支持する特徴である (Alström et al. 2003). 以上から当該2個体を亜種タイワンハクセキレイ (以下、本亜種) と同定した. 本亜種は亜種ハクセキレイとともにサング草群落地内で昆虫類を頻繁に捕食していた. その後、卵原内地区の観察地周辺で1週間に1度程度の確認を行ったが、本亜種を確認することはなかった.

網走市藻琴地区における記録

2021年5月8日の網走市字藻琴の砂質海岸 (43°58'09.1"N, 144°19'30.2"E) で本亜種を確認した (図4). 当該個体についても、2020年に観察した卵原内地区での記録と同様の方法によって観察と撮影を行った. 藻琴地区で観察された個体は単独で行動しており、波打ち際で昆虫類を捕食していた. さらに同日に2020年5月6日と同所で本亜種1個体を確認した (写真なし).

考察

日本鳥学会 (2012) には北海道における本亜種の記録に関する記載はないが、本記録が北海道内における本亜種の第一記録ではないだろう. 例えば、寺沢 (2018) によれば天売島において4-5月に本亜種が渡来することが知られており、田牧 (2017) によれば利尻島で2016年4月30日に観察されたことが記録されている. また本亜種の繁殖地より南寄りに位置



図2. タイワンハクセキレイ個体1, 2020年5月6日 城石一徹撮影.

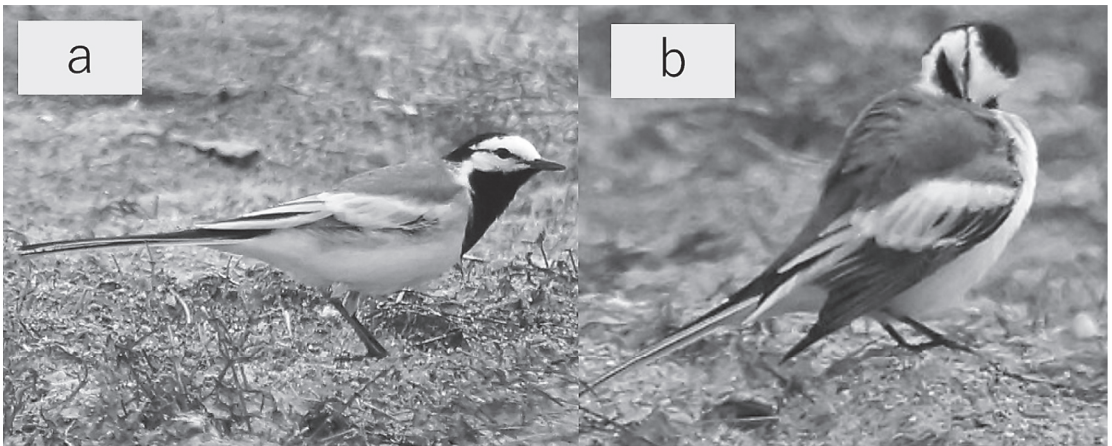


図3. タイワンハクセキレイ個体2, 2020年5月6日 城石一徹撮影.

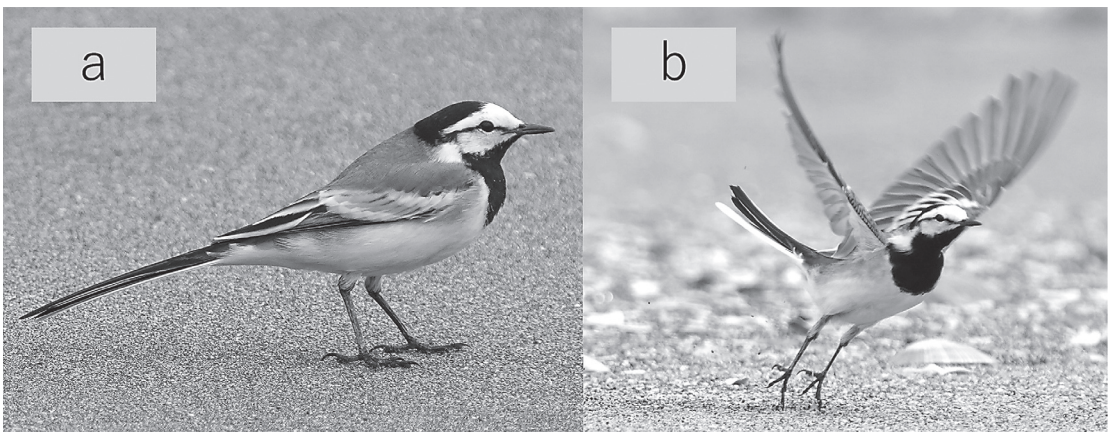


図4. タイワンハクセキレイ個体3, 2021年5月8日 城石一徹撮影.

するカムチャツカ半島南部では本亜種の渡りの時期である5月および8月末から9月に観察されていることが報告されている (Lobkov 1989)。2020年および2021年の本観察記録はいずれも5月上旬であり、網走市周辺において亜種ハクセキレイの渡来数が増加する時期 (城石 未発表) であるが、本亜種が4-5月に単独または亜種ハクセキレイの群れとともに少数が北海道オホーツク地域を經由し、カムチャツカ半島北部などの繁殖地へ渡っている可能性がある。

謝辞

本稿を取りまとめるにあたり、日本野鳥の会オホーツク支部長の川崎康弘氏には本亜種に関わる貴重な文献を提供していただいた。ここに感謝の意を表す。

引用文献

- Alström P, Mild K & Zetterstrom B. 2003. Pipits and Wagtails. Princeton University Press, Princeton.
- Lobkov EG. 1989. カムチャツカで繁殖する鳥類2. 藤巻裕蔵訳. 極東鳥類研究会, 帯広. (原著: Lobkov EG. 1986. in Russian).
- 日本鳥学会. 2012. 日本鳥類目録改訂第7版. 日本鳥学会, 三田.
- 田牧和弘. 2017. 利尻島における鳥類の新分布の記録 (2016年). 利尻研究 36: 13-15.
- 寺沢孝毅. 2018. 天売島鳥類目録 ver.2 天売島における鳥類の月別記録 1982.4 ~ 2018.10 313種. 22. 天売島ビジターセンター海の宇宙館, 羽幌町.